

1月図書館企画

第172回 芥川賞・直木賞 決定!

第172回芥川賞・直木賞（日本文学振興会主催）の選考会が15日、東京・築地の料亭「新喜楽」で開かれ、芥川賞は安堂ホセさん(30)の「Dトピア」（文芸秋季号）と、鈴木結生(ゆうい)さん(23)の「ゲートはすべてを言った」（小説トリッパー秋季号）に、直木賞は伊与原新(しん)さん(52)の「藍を継ぐ海」（新潮社）にそれぞれ決まった。



伊与原新・鈴木結生・安堂ホセ

芥川賞の安堂さんは平成6年、東京都生まれ。令和4年に「ジャクソンひとり」で文芸賞を受賞しデビュー。同作と2作目の「迷彩色の男」が芥川賞候補となり、デビュー作以来3作連続で候補入り。受賞作は、視聴者によって「編集」される南の島での恋愛リアリティーショーを通して、植民地支配や暴力、ジェンダーやセクシュアリティといった問題を描く。

鈴木さんは平成13年生まれ、福島県出身。福岡市の西南学院大大学院で英文学を研究している。令和6年、「人にはどれほどの本がいるか」で林芙美子文学賞の佳作を受賞しデビュー。受賞作は2作目で、ドイツの文豪、ゲーテの研究で第一人者の主人公が、自分の知らないゲーテの言葉と出会ったのを機に、その原典を探し求める物語。

直木賞の伊与原さんは昭和47年、大阪府生まれ。東京大大学院で地球惑星科学を専攻し、博士課程修了。平成22年に「お台場アイランドベイビー」で横溝正史ミステリ大賞を受賞しデビュー。直木賞候補は2回目。受賞作は、萩焼の原料となる伝説の土を求める元カメラマンら、地方で継承されてきた人々の営みを科学の視点を通して物語る短編集。

第172回芥川賞・直木賞 受賞作品の紹介!



第172回芥川賞受賞 安堂ホセ『Dトピア』

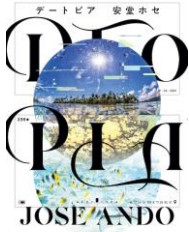
ボラ・ボラ島でミスユニバースを巡ってMr.LA、Mr.ロンドン等十人の男たちが争う。時代を象徴する圧倒的傑作、誕生!

第172回芥川賞受賞 鈴木結生『ゲートはすべてを言った』

高明なゲーテ学者、博覧強識は、一家団欒のディナーで、彼の知らないゲーテの名言と出会う。ティー・バッグのタグに書かれたその言葉を求めて、膨大な原典を読み漁り、長年の研究生活の記憶を辿るが…。ひとつの言葉を巡る統一の旅は、創作とは何か、学問とは何か、という深遠な問いを投げかけながら、読者を思いがけない明るみへ誘う。

第172回直木賞受賞 伊与原新『藍を継ぐ海』

数百年先に帰ってくるかもしれない。懐かしい、この浜辺に――。なんとかウミガメの卵を孵化させ、自力で育てようとする徳島の中学生の女の子。老いた父親のために隕石を拾った場所を偽る北海道の身重の女性。山口の島で、萩焼に絶妙な色味を出すという伝説の土を探す元カメラマンの男。人間の生をはるかに超える時の流れを見据えた、科学だけが気づかせてくれる大切な未来。きらめく全五篇。



第172回芥川賞・直木賞候補作品も読んでみよう!



竹中優子
『ダンス』

乗代雄介
『二十四五』

永方佑樹
『字滑り』

月村了衛

『虚の伽藍』

木下昌輝

『秘色の契り』

萩堂顕

『飽くなき地景』

朝倉かすみ

『よむよむかたる』



新学期にオススメの新刊!

『二人一組になってください』 木爾チレン著

卒業式直前に始まったデスゲーム(特別授業)。あなたに本当の友達はある?青春と友情の極致を描く最高傑作!

『アーセナルにおいでよ』 あさのあつこ著

スタートアップ企業を立ち上げようと奮闘する4人の訳アリな若者たちを描いた青春小説!

『さくらのまち』 三秋縋著

二度と戻らないつもりでいた桜の町に彼を引き戻したのは、一本の電話だった。人の「本当」が見えなくなった現代の、痛く、悲しい罪を描く、圧巻の青春ミステリー!

『責任』 浅野皓生著

冤罪を疑う光彦の両親から再捜査を嘆願された徹は、自責の念に誘われるように引き受けてしまう。新事実など出てきようがない、はずだったが。

『小鳥とリムジン』 小川糸著

3つめの「生」の物語。「愛することは、生きること」傷口に、おいしいものがしみていく。苦しい環境にあり、人を信頼することをあきらめ、自分の人生すらもあきらめていた主人公が、かけがえのない人たちと出会うことで自らの心と体を取り戻していく。

『禁忌の子』 山口未桜著

救急医・武田の元に搬送されてきた自身と瓜二つの溺死体。彼はなぜ死んだのか、なぜ同じ顔をしているのか。

俺たちは誰なんだ。現役医師が描く医療×本格ミステリ

『生殖記』 朝井リョウ著

寿命を効率よく消費するためのヒトのオス個体に宿る〇〇目線の、おそらく誰も読んだことのない文字列の集積。

『富士山』 平野啓一郎著

あり得たかもしれない幾つもの人生の中で、何故、今の

この人生なのか?その疑問を抱えて生きていく私たちに、微かな光を与える短篇集。



『ナチュラルボーンチキン』 金原ひとみ著

新しい世界を見せてくれ。ルーティンを愛する45歳事務職×ホスクラ通いの20代パリピ編集者。同じ職場の真逆のタイプの女から導かれて出会ったのは、忘れかけていた本当の私。慣れきた日常に光を与える、爽快ミラクルストーリー!

『スメラミシング』 小川哲著

壊れゆく世界の未来を問う、現代の黙示録。宗教×超弩級エンタメ6篇を収録。

『五葉のまつり』 今村翔吾著

戦だけが闘いの場じゃない。命と矜持を賭けた任務への挑戦が今、始まる。石田三成をめぐる歴史お仕事傑作巨編!

『架空犯』 東野圭吾著

焼け落ちた屋敷から見つかったのは、都議会議員と元女優夫婦の遺体だった。

華やかな人生を送ってきた二人に何が起きたのか。

『百年かぞえ歌』 大崎梢著

百年という時の流れの背後に埋もれた人々の思い、そして、愛する作家と文学館に自分が出来ることある作家をめぐる「百年」に、あなたは何を見つけますか。

『婚活マエストロ』 宮島未奈著

40歳の三文ライター・猪名川健人は、婚活事業を営む、ドリーム・ハピネス・プランニングの紹介記事を書く仕事を引き受ける。安っぽいホームページ、雑居ビルの中の小さな事務所。どう考えても怪しい。

『明けないで夜』 燃え殻著

“絶対的な安心感”が詰まった30篇とちょっとのエッセイ集。日常をなんとかやり過ごすためには、映画館の暗闇の中のような絶対的な安心感が必要だ。映画館の暗闇の中のような言葉や音楽。誰にも教えていないパートナー、ひとりの時間。寄り道と空想。たしかな肩書きや名前の付いていないあれやこれやが僕を支えている。

